

あつし塾長の 子のやる気 親の気づき

〇〇81



会議中に携帯電話が鳴った！私は周囲の迷惑にならぬように、そっと着信履歴をのぞいてみました。志学塾の姉妹校である通信制サポート校「ウイング高等学院」に通う高一男子からでした。確かに、何かあったら相談するように、社会人の基本

修学

である「報(告)・連(絡)・相談」を指導しています。特に入塾の際には「人に迷惑を掛けない、弱い者をいじめない、うそはつかない」というルールを確認し「報・連・相」の実行を約束します。だから、通信制課程の子どもたちは全員、私の携帯の番号を知っています。この日は、会議の後の懇親会、2次会と続き、帰宅したのは真夜中でした。午前1時45

畏敬の念を抱く体験を

意識持ち学ぶことが大切

代の子には、大人の常識で怒っても話には先に進みません。この子たちは、概して言えば、大人から見ると非常識

でも、とても素直です。して未熟なのです。「ウイング高等学院」では、在籍する20人前後の子どもたちを私たち塾長夫婦が引率し、毎年修学旅行に行きます。雪深い青森駅から寝台夜行列車「日本海」に乗り込み一路、京都を目指します。京都に一泊し、奈良まで足を延ばします。東大寺、法隆寺と…。世界一大きい、世界一古いというような「現実」を目の当たりにする体験を通して、子どもたちは畏敬の念を抱くようです。2009年の旅行では薬師寺で和尚様からご講話を頂きました。「だるい、眠いという

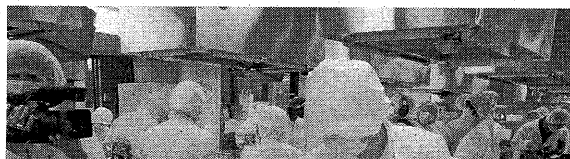
ぶとは、自分で見つけ興味を持つ行動を起こすことだ」とお話しされました。「例えば、興味を持つとは本を開くこと。行動を起こすとは、それを読むこと。見つけようとするは見つかる。教えられないもの。学び取るものが人それぞれ違うから、自分自身の目的になる。修めるとは自分に取り入れること。それが修学旅行ですよ」。講話は30分間続きました。その間、子どもたちの集中は途切れることなく、それどころか話が進むにつれて皆の背筋が伸びていったのが印象的でした。



by yoriko

同じ年、私は富山県南砺市の太田住職から「土徳」という言葉を教えて頂きました。「人材は育たないが、人材は生まれる。ただし、素地のないところに決してそれは生まれない。だから、人材の生まれやすい地域をつくらう」と。今、まさに地域の本気の教育が待たれます。
(畑山篤) 志学塾塾長

地場産物で自慢の献立

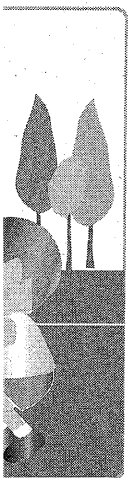


全国学校給食懇話会に作る出立 栄養大駒込キ

多様な運動 幼児期に

日本には、一つの運動を長く続けていることが美化される風潮があります。「マラソン一筋に長年続けてきた」といった

要



ルは取られてしまいです。ポイントは、膝の伸びが円滑に行なかどうか。体重計の膝を曲げれば、重心ががって針は重い方に振ります。逆に膝を伸ばす軽い方に。サッカーやバスケットで大きな相手かわす

教育